

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100629		
法人名	社会福祉法人 椿寿会		
事業所名	シニアレジデンスつばき		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成24年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園の中に立地しており、天候の良い日は遠くに富士山やスカイツリーを望むことができる。日当たりが良く、四季折々の風景や花なども楽しむことができる。又、小さな畑があり、トマトやキュウリ、さつま芋などを育て、皆で収穫を楽しんでいます。開設当時から職員も多く在籍しており入居者様との信頼関係が築け、医療との連携ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の健康管理と身体機能の維持に向けた積極的な取り組みが行われている。歌謡曲や演歌に合わせて手・足を曲げ伸ばす体操や手遊びゲーム、庭園やテラスでの散歩・外気浴等、声を出したり、身体を動かすことや外出の機会を多く設けており、心身共に健康な生活を過ごされるよう支援されている。  
 ・東日本大震災の教訓を活かし、備蓄や非常持出品の見直しを行ない、避難日数、寒さ対策や健康衛生面等を考慮し、備蓄品目の追加・増量を図ったり、持出品リストを再整備される等、体制整備に取り組まれている。  
 ・平成22年度の目標達成計画の地震・風水害等災害別の避難訓練の実施については、定期防災訓練とは別に地震や風水害の発生を想定しての避難訓練に取り組まれるなど、目標計画を達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・食堂に「介護理念」「運営理念」を掲示し、朝礼の時に唱和している。天候に応じて外気浴や散歩に出かけたり建物内には季節感のある飾りつけを心がけている。	職員全員で創られた運営理念・介護理念のもと、利用者が心身共に健康で、季節を感じながら明るく生き生きと生活されるよう、気配りされたケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町の文化祭へ習字を出展し、すぎとピアのサマーコンサートへ作品を出展し、作品や催しものを見学に出かけている。	町の文化祭への書の出展や障害者・中学生等による定期コンサートの鑑賞、ボランティアとの交流等、地域の方々と日常的に交流をされている。又、事業所催事には自治会役員や地域住民を招き、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一度の運営推進会議を通じて役場や地域、家族の方々へ呼びかけをおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は参考になり、その都度資料にまとめ、活かしている。	定期的に開催され、事業所からの報告のほか、災害対策(備蓄や非常持出品など)や外部評価結果と課題解決への取り組みなどについての話し合いが持たれ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場には行く機会も多く、相談や質問など互いにおこなえている。	事業所からの報告・相談や事務手続き時などのほか、介護相談員の会合時などにもコミュニケーションを図られている。又、運営推進会議でも適宜事業所運営でのアドバイスを頂くなど、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当者会議等を通して職員は正しく理解している。玄関や居室に鍵はついていないが施錠はしていない。玄関にはセンサーを設置している。	内部研修が行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに向けた取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は入居者が活用されており職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書を理解できるように説明し、疑問点があれば、いつでも回答できる旨を伝えている。解約時は状況説明し、理解して納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事参加など機会を設け、その時に提示された意見・提案を運営の参考にしている。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会・イベント時に意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(10/25・12/26)・個人面談(年1回)にて意見を聞いている。	定例会議や個別面談時に意見・提案を聴きとられている。また、言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、個別ケア対策や外出企画案など、具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議(10/25・12/26)・個人面談(年1回)にて意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を活用している。研修後に施設内において職員の勉強会を行い、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の事業者連絡会議などを通じて意見交換をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご家族だけでなく可能な限り、ご本人に見学していただき話しを伺い、不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にはご家族に見学していただき、話しを聞くことにより不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が選択できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	しっかりされている方や、認知症が進み、重度化してきている方もいる。一人ひとりの目線に立ち、職員は共に過ごしながら関係を築けるよう日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの訴え時や家族の協力が必要な時には連絡をし、協力を得ている。面会時には近況報告し、理解していただき納涼祭やクリスマス会の案内を出し、行事への参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来所した時には、また来ていただけよう、帰られる際には声をかけている。	古くからの友人・知人が面会に見えたり、家族の協力を得ての墓参りや行きつけの美容室へ出かけるほか、知人・友人との手紙のやり取りや電話の取り次ぎなど、馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないよう職員が関わり、話しの輪を広げ、良好な関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「近くに来られた際にはお寄り下さい」と声かけをしている。契約終了後に来所されたご家族がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査を行い、家族及びご本人からの話を伺い情報収集に努めている。ご本人の希望を伺うことが難しい場合は日々の会話や行動等から汲みとっている。	思いや意向の把握が難しい利用者については、入居時の各種情報の振り返りのほか、日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情・仕草などからその真意を推し図るよう努め、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞ける範囲は聞いているが、身寄りのない方については日々の会話等から汲みとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や日誌へ記録し、朝礼・夕礼に申し送りをおこない、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議の中で見直しをおこなっている。定期的な見直し、更新時には本人及び家族に意向・希望を伺っている。緊急に見直しが必要になった場合には関係者と話し合い、介護計画の変更をおこなっている。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴きとり、医師・看護師の意見を取り入れ、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は日々の様子や気づき等を細かく記入し、職員間で情報を共有できている。また、介護計画作成時には活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診の際の主治医と家族の橋渡し。ご家族同伴の受診が困難な時には職員が同行する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、ボランティアをお願いしている。書道を月2回教えていただいている。年2回の消防避難訓練と風水害避難訓練をおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の定期的な往診。かかりつけ医との関係を築きながら本人や家族の希望を受け入れている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の計画的な受診は家族対応を基本としているが、その他は職員による対応で、医師や家族への必要な利用者情報の提供も行なわれ、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護がないため体調不良や身体に変化がある時には協力病院に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ面会に行き医療機関や家族からの情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約当初に終末期の方針を考えていただいている。症状が進んだ場合は、かかりつけ医から家族へ状態の説明をおこない方向性を共有する。主治医から必要な指示を仰ぐ。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、意志確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修を受けている。AEDの使用方法について施設内にて勉強会をおこなった。緊急時の対応は見える所に掲示し職員は周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練をおこなっている。同法人施設からの援助も可能であり災害時相互協定書をかわしている。12月に風水害を想定した訓練をおこない、2012年3月には地震を想定した避難訓練を予定している。	年2回の定期防災訓練とは別に地震や水害の発生を想定しての訓練にも取り組まれている。又、東日本大震災の教訓を活かし、備蓄や非常時持出品などの見直しを行ない、員数や避難日数、寒さ対策や健康衛生面などを考慮し、備蓄品目の追加や増量を図るほか、非常時持出品の詳細リストを作成する等、体制整備に向けて取り組まれている。	消防法に基づく、火災発生時の職員の役割分担は整備されているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常時持出品についての役割分担などを明確にすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にあつた言葉かけをし、馴染みの関係を築いているが人生の先輩であるということ念頭に置き、言葉使いには十分に気をつけている。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通して希望を汲み取り選択しやすい場面をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回訪問理容をおこなっている。本人希望の理・美容院へ行く方はいない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活動作の低下の為、おこなえていない。	力の低下はあるものの利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けなどを職員と一緒にしている。又、利用者の希望に沿い、寿司や蕎麦などの外食やロールケーキ・おはぎ等、手づくりおやつを職員と共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量をチェック表へ記入し、把握している。一人ひとりの好みや状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力可能な方は本人がおこない、声かけ、見守りなど必要に応じて対応している。自力困難な方は本人の力に応じて介助をおこない毎食後、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して1人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し、声かけ・誘導している。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し把握している。便秘が続く時は原因を考え水分量や運動に気をつけ、主治医に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24時間入浴可能だが一人で入浴可能な方は現在いないため職員体制がとれる時間帯に入浴介助を行い、ゆったりと入浴していただけるよう支援している。入浴日が決まっていることで楽しみにされている方が多い。	入浴日と時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、入浴されるよう取り組まれている。時には、気の合う利用者同士と一緒に、大きな湯船で長湯されるなど、入浴を楽しまれている。又、利用者個々の力に合わせて、職員2人で介助体制をとるなど、安全面も配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室には馴染みの物を置き、安心していただけるよう配慮されている。個室になっているので休みたい時に自由に休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前・用法・用量の写しがあり、閲覧できる。服薬は飲み忘れがないよう支援し、変更がある場合は申し送りし、様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さな畑があり、職員と共にサツマイモの苗植えや収穫を楽しまれ、収穫後にサツマイモでスイートポテト作りをおこなった。その他にも、おはぎ作りをおこない楽しんでいた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事などを予定し、外出している。天候に応じて散歩や外気浴をおこなっている。	日課の散歩のほか、庭園やテラスでの外気浴、日用品の買いものなど日常的に外出支援をされている。また、季節ごとのお花見や外食など、利用者の希望を尊重した取り組みが行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で小遣いの管理をしている方はいないが、いつでも使えるようにはなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で連絡がしたい時には事務所の電話を利用している。手紙を利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は吹き抜けになっているため日中は日差しが入り、暖かい。生花や行事の写真など、季節を感じるができるよう飾りつけを工夫している。	利用者にとって不快や混乱を起さぬよう、室温・音・採光などきめ細かな配慮がとられている。又、季節感ある貼り絵・折り紙や書・和紙を使った作品ほか、楽しい思い出の写真などが飾られ、明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の交流が保てるようテーブルや椅子の配置を変えるなどし、席位置に配慮している。庭にベンチが数か所設置しており天気の良い日には外気浴や散歩、談話など職員と共に時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や仏壇を持ってきている方もいる。レクリエーションの中で本人が作った作品や習字などを部屋に飾っている。	家族の写真や仏壇・位牌、馴染みの机や椅子、寝具、好みのぬいぐるみなどが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。又、毎朝掃除の時間が設けられ、共有スペースを含め清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札をかけている。廊下・トイレ・洗面台・浴室には手すりを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名 シニアレジデンス つばき

## 目標達成計画

作成日: 平成 24年 2月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常時の持出品	非常・災害時における持出品の役割分担の明確化	持出品の置場所を確保。	1ヶ月
2				持出品の担当者を明確にする。	1ヶ月
3				出勤者が持出品を確認・理解する。	3ヶ月
4			災害別に避難訓練	持出品・避難経路・避難場所の確認。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。